



どこまで競るのか、競り合いビッド

2020.1.17

皆さんは、競り合いビッドになってどこまで競るのか頭を悩ますことがよくあるでしょう。

例えば：

自分 パートナー
1 S - (2 H) - 2 S - (3 H)
?

3 S と言って良いのか、パスすべきか、はたまたダブルというべきか、どのように判断するのでしょうか？ 3 レベルならまだしも

1 S - (3 C) - (4 C) - (5 C)
?

などと 5 レベルや、ことによれば 6 レベルで頭を悩ますことも少なくありませんね！
このような時に絵札点が何点だから、という議論をする人は沢山居ます。しかし競り合いのビッドでは、点数で評価してはビッドの判断はうまくゆきません。特にアンバランスハンドになればなるほど絵札点は役に立ちません。ではどうすればよいかということになります。重要な指標になるのがトランプの枚数です。これはトータルトリックの法則からくるものです。

Total Trick の法則というのは「どんなハンドでも両側で取れるトリックの合計は両側のトランプの合計に等しい」

というものです。例えば NS 側はスペードが 5 4 フィットし、EW 側はハートが 4 4 フィットしていたとすると、 $5 + 4 = 9$ と $4 + 4 = 8$ の合計 17 が両者の取れるトリック数になります。(つまりスペードで 9 トリック、ハートで 8 トリックの合計 17 トリックに等しい) と言うわけです。これはあるスートのフィネスが利くかどうかということと無関係になります。一方にとってフィネスが利けば取れるトリック数が 1 増えますが、逆に相手側が 1 減ることになり、フィネスが利かなければ一方のトリックは減るがもう一方は増えるので、合計で見れば同じトリック数になるからです。

競り合いになった時のビッドでどれだけの点数があるかよりもどれだけのフィットをしたかが目安としてずっと重要だということに他なりません。これはすでに皆さん方が一部実践されていることでもあります。

パートナー 自分
1 S - (2 H) - 3 S

と 4 枚サポートで弱いことを示していますね。これは自分たちが 5-4 フィットしたからです。相手が何枚フィットしているかはまだ不明ですが、少なくとも自分たちは 3 S まで

競ってもよいのだと言うことを表明したのです。昔はこのシーケンスはインビテーションハンドであることを表していたのですが、今そうしている人は皆無でしょう。今は皆 3 H でフィットしているインビテーションハンドを表しています。(さらに余談ですが、この方法も問題含みです。ただ強いフィットであることを示していても何枚フィットなのか示していません。3 H は 3 枚サポート、2 NT で 4 枚以上サポートのインビテーション以上を示す方法もよく使われるようになって来ています)

ここで例を問答形式で見てください；

1 H - (1 S) - 2 H - (3 S*) *ブリエンブタイプ

となったときに、

- オポネントは何枚フィットしていますか？
- 3 S が 4 枚サポートと推測すると少なくとも 5-4 フィット、つまり 9 枚フィットはしていると推定出来ますね
- 自分たちは何枚フィットしていますか？
- パートナーの 2 H が 3 枚サポートだとすると、自分のハートが何枚ストなのかによりますが、5 枚なら 8 枚フィット、6 枚なら 9 枚フィットということになります。
- トータルトリックはいくつでしょう？
- 自分が 6 枚オープンだったとすると $9 + 9 = 18$ と推定してよさそうです。
- オポネントがもし 9 トリックとれるとしたら、こちらは何トリックとれると期待して良いのでしょうか？
- $18 - 9 = 9$ トリックでこちらも 9 トリック取れると期待してよいのです。
- こちらも 9 トリック取れるとしたら、どうすれば良いのでしょうか？
- パル関係によって違ってきます。相手バル、こちらノンバルのときは問題なく 4 H と言います。ダブルされても 100 点マイナスで済みますが、ほっておけば 140 点マイナスになりますので得ですね。ナイザーバルでも同じです。ボスバルあるいはこちらバル相手ノンバルならばダブルされると 200 点マイナスで、損になります。この状況では心理戦が関係してきます。こちらバル相手ノンバルでは、自信たっぷりに 4 H と言うと、相手はサクリフェイスしやすい状況ですから 4 S と言います。オポネントの性格も理解しておいたうえでどうするか判断するとよいと思います。

結論として競り合いビッドではトランプ枚数の方が絵札点より重要な指標になるということです。絵札点はディフェンスに回った時にどれだけ取れそうかの指標になりますが、オフェンスではトランプ枚数の方が重要なのです。なお、どこまで競るかはマーク出来そうだから競るという意味ももちろんありますが、ダウンする場合でも相手のマークしたときの点より少ないからという場合もあるということを理解していなければなりません。競り合いのビッドの特徴的なというよりは真髓部分です。